

うとしています。しかしながら、目を世界に転じてみると、2014年ロシアの特殊部隊によるクリミア侵攻後、2022年2月24日から始まったウクライナ全域に対するロシア側の本格的な攻撃、イスラエルとパレスチナとの果てしない対立の中で繰り返されてきた無抵抗な子供や女性が次々と犠牲となるイスラエル側の大量虐殺、このほかにミャンマー軍事政権による抵抗勢力への軍事攻撃、シリア内紛、リビ



2024年の日本は何事もなくあったかのよう

学校法人仙台育英学園理事長
秀光中学校・仙台育英学園高等学校

校長 加藤 雄彦

ア内紛等、数え切れない殺戮者による無抵抗な市民に対する恐怖が日常的におきた1年でもあります。今回紹介する著者はオーストラリア首相や外務大臣を歴任し、習近平研究で英国オックスフォード大学から博士号を取得した中国通のケビン・ラッド氏です。同書は2024年3月10日初版で、訳者は『米中戦争前夜―新旧大国を衝突させる歴史の法則と回避シナリオ』（グレアム・アリソン著）はじめ『撤退するアメリカと「無秩序」の世紀―そして世界の警察がいなくなった』（ブレット・ステイブンス著）等の最新書籍の翻訳を手掛けている藤

性となってきたからだ。」と断言しています。習近平は長年にわたり中国共産党の重点課題や計画を強化してきたおり、それを加速させる段階に入ったことが米国との対立を鮮明にしてきたと言えるのではないかと思います。習近平の世界観を一言で表すと「同心円を描く10の利益」だと著者は説明しています。これを行動科学的に解釈すると①習近平と中国共産党のマルクスレーニン主義の基盤の活性化による国内ナショナリズムの徹底強化と権力の集中、②毛沢東の革命と1949年に建国した中華人民共和国が唯一やり残してきた台湾統一を成就させる政治的正当性、③ドル中心の国際金融システムや外国の製造技術に依存しない経済の自立と繁栄、④国家の安定を約束する環境の持続可能性を重視した経済発展、⑤豊かな経済力を背景とした人民解放軍の現代化とアジアの沿岸諸国への国力の誇示、⑥ロシアと並び14

の国と接している地政学的状況に基づいた防衛的戦略思考と並行した近隣国との融和、⑦米国との同盟関係にある周辺国との関係改善による米国からの切り崩し策の実行と海空軍の強化による米国の覇権的地位の喪失、⑧一帯一路政策によるアフリカ大陸も凌駕するユーラシア大陸全体における利権の追求、⑨国際機関等で中国の提案が受け入れやすくする環境づくりとして途上国への貿易・投資を推進、⑩経済力、外交力、軍事力を背景とした中国中心の世界秩序の構築、以上となります。これらの10の利益と考える重点課題を米国民は理解することができないのではないかと切り口から著者は戦略的競争そのものを回避すべきだというナイーブな議論ではなく、競争的衝突にエスカレートさせないための管理方法を提言している点に強い関心を抱きました。中国と米中関係を最新情報に基づいて学び、2030年までに台湾をめぐる大国間の軍事衝突を発生させないためにも同書の価値は高いと思います。（購入価格が高いので宮城野・多賀城校舎の図書館に5冊ずつ準備しておきます。）

図書館だより

『避けられる戦争』 —THE AVOIDABLE WAR

第51号

秀光中学校
仙台育英学園高等学校
仙台育英学園沖繩高等学校
図書館
印刷所 本田印刷

原朝子氏です。

この著書を執筆した理由をそのエピソードに「2030年までに中国と米国の武力衝突が起きることが現実的な可能性

令和6年度 図書館別 貸出トップ5

～今年度はこの本が人気でした～

宮城野校舎図書館		
書名	著者	出版社
1位	成瀬は天下を取りに行く	宮島 未奈
2位	傲慢と善良	辻村 深月
3位	成瀬は信じた道をいく	宮島 未奈
4位	汝、星のごとく	凧良 ゆう
5位	リカバリー・カバヒコ	青山 美智子

多賀城校舎図書館		
書名	著者	出版社
1位	成瀬は天下を取りに行く	宮島 未奈
2位	変な家	雨穴
3位	レーエンデ国物語	多崎 礼
4位	成瀬は信じた道をいく	宮島 未奈
5位	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。	汐見 夏衛

栄光校舎図書室（沖縄）		
書名	著者	出版社
1位	人は話し方が9割	永松 茂久
2位	音楽は自由にする	坂本 龍一
3位	人間失格	太宰 治
4位	中野京子と読み解くフェルメールとオランダ黄金時代	中野 京子
5位	ハリー・ポッターと賢者の石1-1	J.K.ローリング

電子図書館		
書名	著者	出版社
1位	変な家 電子版	雨穴
2位	自分って何者？	鈴木 克彦
3位	余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話	森田 碧
4位	屍人荘の殺人	今村 昌弘
5位	余命99日の僕が、死の見える君と出会った話	森田 碧

宮城野校舎図書館

場所：栄光3階
開館時間：8：00～16：30
休館日：土・日・祝日 他

多賀城校舎図書館

場所：ライオンズホール2階
開館時間：12：00～17：00
休館日：土・日・祝日 他

栄光校舎図書室（沖縄）

場所：2階
開館時間：8：30～17：00
休館日：土・日・祝日 他

電子図書館

場所：インターネット接続可能なところ
開館時間：24時間
休館日：なし（メンテナンス日を除く）

「沖縄県高校生読書リーダー育成研修」参加生徒おすすめの本

『中野京子と読み解くフェルメールとオランダ黄金時代』 中野京子著 2年C組17番 鈴木アカネ
ヨーロッパ諸国で絵画を所持するのは貴族などの支配階級のみの特権だった17世紀当時、オランダでは一般家庭にさえ絵が飾られていたことをご存じだろうか。当時の室内の様子が描かれた絵画にも絵が沢山飾られている様子が見られる。このことからどのくらい絵が溢れていたのかわかるだろう。本書では絵画の写真と解説、製作者などの情報に加え、シンボルの意味や人物表現を知ることにもできる。絵画に沿ってオランダやオランダ周辺諸国の歴史や文化、当時流行した絵の題材等が書かれている。本書の題に「フェルメール」とあるが、フェルメール以外のオランダに関連する画家達についても豊富に取り扱われている。あなたのお気に入りの画家になる人がいるかもしれない。読んだら美術館に出かけていきたくなるそんな一冊である。ぜひ一度読んでみる事を薦める。

『高校生のための選挙入門』 斎藤一久 2年C組26番 比嘉凜音
私たちはネットを通じて簡単に情報を得られる時代に生きています。しかし、情報の多さゆえに、混乱や誤解を生むことも少なくありません。ネット上では「〇〇が一番いい」「〇〇はダメだ」といった感情的な意見が飛び交い、政治に対する議論も時に過激化します。そんな光景を目にして、「政治は難しい」「自分には関係ない」と感じる人もいるかもしれません。しかし、私たちはもう高校生です。皆さんの中には、すでに選挙権を持つ人もいます。立場によって、悩みや疑問は異なるかもしれませんが、皆さんの中には、「なぜ選挙が大切なのか」「選挙が私たちにどう関わるのか」がピンとこない人もいますかと思えます。本書は、そんな疑問を解きほぐし、自分ごととして考えるきっかけを与えてくれます。私たち高校生が選挙について学ぶための最初の一步にぴったりの一冊です。日本の選挙制度やその仕組みをわかりやすく解説し、問題点や疑問点を教えてくれます。選挙は、義務ではありませんが、自分たちの未来を作るための大切な一歩です。ぜひ、この本を手に取り、自分の意見を持つ第一歩を踏み出してみませんか。

『おおかみこどもの雨と雪』 細田守著 1年I組6番 大城海里
「私がすきになった人は、”おおかみおとこでした”」
東京の大学に通う花は、おおかみの血を引くおおかみおとこの彼と恋に落ちました。二人の間に生まれてきた子どもたちは、「人間とおおかみ」のふたつの顔を持つ、《おおかみこども》でした。二人は、雪の日に生まれた姉に雪、雨の日に生まれた弟に雨と名づけ、家族の日常が始まります。この作品は母と姉弟の13年間の家族愛が書かれた話です。笑いあり涙ありの心温まる素敵な作品です。私が印象に残っているのは物語後半の嵐が来た場面です。この場面は、子供たちが「人間か、おおかみか」の大きな決断をする日を描いています。子供たちがどちらを選ぶのか、花の気持ちが伝わってきて、読んでいる私も緊張してしまいました。この作品は私が小学生の時から好きな本で何度読んでも飽きません。興味を持っていただけたらぜひ読んで頂きたいです。

『人魚の眠る家』 東野圭吾 1年I組22番 渡久地胡天
死というのは複雑なものである。呼吸の停止、脈拍の停止、瞳孔拡大の症状などが確認され、蘇生不能な状態に陥った場合、死亡したものとみなされる。だが、心というのは目に見えず曖昧なものである。そのため体が死んだと同時に心も死ぬのか、死ぬ瞬間に何か思うのか、なんて誰もわからない。そして脳に関して也未だ説明されていない部分が多い。そんな中で自分の大切な人が、まるで生きていたかのように死んでいたら、息や温もりを感じられたら、それは死んでいるというのだろうか。この物語は、事故によって脳死状態となってしまった少女とその母親の狂気とも思えるほどの愛が細かく描写されている。我が子のためなら何でもする、どこまでも狂う母親。どの考えが、どのような処置が、どんな気持ちが正しいのかなんて分からないけれど、この子のためにやれることはやる。全ては愛ゆえに。ぜひ、あなたもこの物語の中に引き込まれてみてほしい。

沖縄探究におすすめ！
マンガ沖縄・琉球の歴史 上里隆史著
沖縄と言えばどのような事が思い浮かびますか。青い海と青い空、首里城や三線、紅型などの多様な文化でしょうか。これらは沖縄が琉球王国と呼ばれていた時代から受け継がれている沖縄の伝統的なものです。独特な立地により、様々な国と関わることで成立していた琉球の歴史は、大きく貝塚時代、古琉球、近世琉球、近代琉球、戦後琉球に分ける事ができます。この本ではそれぞれの時代の特徴や現代の沖縄にもみることの出来る文化について知ることができます。例えば、琉球王朝時代の人々はどうに暮らしていたのか、どんな方言があるのかなど、文化についてゆるいテイストのマンガで分かりやすく解説されています。歴史が得意ではない人も歴史に興味関心がある人でも楽しむことのできる一冊となっています。

■令和6年度 宮城野校舎図書館利用統計 (6学年41クラス) (11月30日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
冊数(冊)	442	542	341	501	118	226	372	271	2,813
人数(人)	800	1,106	941	1,098	323	668	894	879	6,709

■令和6年度 多賀城校舎図書館利用統計 (3学年57クラス) (11月30日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
冊数(冊)	163	184	108	264	83	119	234	145	1,300
人数(人)	470	503	555	701	223	523	736	814	4,525

■令和6年度 沖縄栄光校舎図書館利用統計 (2学年2クラス) (11月30日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
冊数(冊)	2	8	9	9	2	10	20	34	94
人数(人)	2	11	10	16	2	18	25	55	139

秀光	中1	中2	中3
努力賞	3	2	1
位置	21	11	3
冊数	45	35	12
人数	52	34	22

栄光校舎 (沖縄)	高1	高2
該当者なし	1	1
冊数	20	20

多賀城校舎	高1	高2	高3
努力賞	3	2	1
位置	21	11	3
冊数	38	28	24
人数	120	45	24

宮城野校舎	高1	高2	高3
努力賞	3	2	1
位置	21	11	3
冊数	74	33	25
人数	76	37	35

「本の探究者賞」
(年間多読賞)結果
(4月1日～11月30日)
※1年間に多くの本を読んだ人を表彰します。期間中20冊以上(中学生は10冊以上)借りた全員が対象です。各学年上位3名には賞状と景品を、その他努力賞として賞状を贈呈します。

令和6年度

仙台育英沖縄高等学校の生徒が参加!

「沖縄県高校生読書リーダー育成研修」の紹介

沖縄県が実施している「令和6年度子どもの読書活動推進事業『沖縄県高校生読書リーダー育成研修』」に、沖縄高等学校から4名の生徒が参加しました。
本研修は、沖縄県内の高校生約40名を募り、「記憶に残る一冊と出会うには、不読率0を目指して」をテーマに、各学校における読書に関する課題について取り組む研修です。

○研修の内容
全体の研修行程としては、「事前研修(オンデマンド)」、「3日間の対面研修」、「デザイン発表」、「中間報告会」、「最終報告会」となっています。これらの活動と、学校ごとに取り組む活動を、約1年を通して行います。

学校ごとに取り組む活動では、まず各学校における読書(図書室)に関する課題について、学校ごとに課題を立案しました。次に活動計画を立て、調査・研究・実践・検証に取り組み、課題解決に向け探究活動を行いました。

○3日間の対面研修について
1日目は琉球大学附属図書館にて、昨年度参加校の実践事例を聞きました。講義ではアンケート調査の分析方法などを学びました。ワークシヨップでは、探究活動を行う上で、必要な調査の取り方や分析方法についてのポイントを実際に作成しながら学びました。また実際に大学図書館の見学ツアーに参加しました。
2日目は沖縄県立図書館にて、「不

読率」を改善するためにどのような事ができるかを考え、「ポジショニングマップ」を通し、学校で実際にできるかを検討しました。
県立図書館の館内ツアーに参加し、図書館の閲覧室はもちろんバックヤードなどもまわり、図書館の配架のしかたや広報の工夫やポイントについても触れました。
3日目はジュンク堂那覇店にて書店が行う工夫について学びました。陳列についての工夫やPOP、出版業界のことについて紹介を受けました。ワークシヨップでは「POPコンテスト」を行い、実際にPOP作成をしました。本の魅力を効果的に伝えるPOPの書き方やディスプレイのしかたについて書店にて実施されている方法について学びました。

○沖縄高生徒の取り組みとして
まず図書室に関する課題発見のために在校生に対し、アンケート調査を実施しました。沖縄校の課題として「本の蔵書数」「図書室に行く機会がない」という点があげられ、検討を行いました。

「本の蔵書数」の対策について
本の蔵書数という課題について、沖縄県立図書館が実施している「広域サービスマン用図書一括貸出」を利用するために沖縄高等学校の先生方に対して「プレゼン」を行い、提案書を提出しました。希望図書についても在校生に再度アンケート調査を実施し、結果をもとに研修に参加している生徒が



○今後の活動
今後としては、2月3日に「最終報告会」が対面で開催される予定です。最終報告会に向け、「読書」や「図書室」について再度アンケート調査を行います。実施した対策の効果について検討します。そのうえで、課題に対してどのように取り組みを行い、どのような効果があつたのかを総括して報告する予定となっています。また、さらなる課題についてもまとめ、今後の学校図書室の運営に活かしていきたいと考えっております。

直接選書を行い、現在約500冊の本を借りています。
「図書室に行く機会がない」の対策について
また、図書室にどのような本があるのかをつたえるため月に1度「図書展示」や「図書だより」を発行しています。図書展示では毎月テーマを決め、選んだ図書を展示しています。図書だよりは、展示している図書の紹介や図書室の利用方法などを伝えることを目的とし、研修にして参加している生徒が中心となって発行しています。